

■ 第27回創造性研究会報告 ■

「国際ビジネスによる日本語の普及と価値観の共有」 —オフショアビジネス、日本語のできる外国人ビジネス人材の育成、 外国人との遠隔授業—

講師：伊藤征一氏 日本創造学会会員



(こりゃ何だ。この先生は何を言い出されるのか) と、正直言って、始まったとたんに思った。

「国際ビジネスで日本語だけで通用させる。ここでは英語は不要だ」と、発表者が言い始めたからだ。この言葉に私は席を蹴って退場しようかと、一瞬思ったほどだ。思い直して、腕まくりして(質問時間に追及していこう)と決意して座り直した。

日本創造学会の2か月に一度の創造性研究会(7月6日)のゲストスピーカー元星城大学教授の伊藤征一先生の講演が始まった時だ。タイトルは、「国際ビジネスによる日本語の普及と価値観の共有」という講演だった。

退席しなくてよかった。

話が非常に面白かったのだ。IT関係や財務経理・人事部などの事務処理業務のアウトソーシングやデータ入力、各種のコールセンター関係で、日本語でなければできない仕事が中国、ベトナム、インドでどんどん始まっているという話だった。ITソフトの開発でも、日本語だけで海外で開発が可能なところまで、環境が揃いつつあること、更には商品などのコールセンター、商品の問い合わせや、通販の受注まで、海外で立派に、安く、大規模に進めることができるという現状を聞いて、「なるほど日本語でなければ、それも立派な日本語でなければだめだなあ」と、納得したのだ。

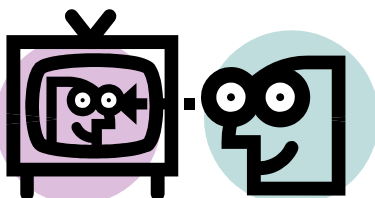
私たちが電話した相手を、日本人だと思っても、実はベトナム人であり、ベトナムに電話しているということが起こっているのだ。

私がベトナム・ハノイに駐在していた当時、ベトナム人の語学習得能力の高さには本当に驚いていた。ハノイの大学には日本語科があったが、卒業しても、日本語で就職できる学生が少なかった。ところが、このITソフトやコールセンターでは、まともに日本語を使いこなすことを要求され、まさに日本語科の卒業生にとっては、素晴らしい学卒の吸収企業となっていることが、まさに時代の変化だと思った。

ところがこの伊藤先生のユニークなのは、アカデミックに海外での日本語ビジネスの現状を調べるだけでなく、自分でも海外の日本語を学ぶ学生たちを積極的に日本から遠隔講義で指導を開始したことだ。私より多少年配の伊藤先生、日本の自宅でスタジオを作り、中国人、ベトナム人への日本語教育を開始したのだった。すごい、面白い。

先生の説明で、印象に残ったのは、ベトナムのキヤノンのデジカメ工場で数千人の工場の作業員を雇用していることも大事かもしれない。しかし、日本語を完璧に話す数十人、数百人の大学卒の仕事を海外で作り返すことは、更に重要な未来の日本との関係を作るのではないだろうかということだった。

先生は何度も中国やベトナムを訪問し、現地の企業や学生たちを積極的に指導しようとしてきた。その馬力はすごい。惜しむらくは、先生はこれをほとんど自前、自分のポケットマネーでやってきたことだ。まだ、先生はビジネスモデルとして完成できていないことだ。たぶん、海外での日本語のエキスパート育成には、日本の大手企業は大きな関心を持つだろうと思うから、伊藤先生は、これらの日本の企業と一緒に進めれば、ビジネスとしても成り立つのではないかと思った。英語は要らないという先生の肩書が「エデュケーション・プランナー」だから茶目っ気があり面白い。とにかく、元気で最先端の領域を走り回る伊藤先生の話聞いて、本当に感動した。



2013年7月6日近畿大学東京事務所(四谷)にて開催
(報告：樋口健夫理事)